

①「地域の人との交流・体験」プロジェクト

地域のお年寄りとのふれあい・交流、地域人材を活用した学習・体験を通して、人とのつながりの大切さ等を感じ取らせ、コミュニケーション力を育てていく活動

【目的】

- 地域の人のおたたかかさやすばらしさを感じ、つながりを大切にしようとする態度を育てる。
- 将来にわたり多くの人と主体的に関わり、他者と協力・協働しながら解決策を探る力を育てる。

②「地域の自然・環境理解」プロジェクト

ジオパークに関する学習や自然にふれ、体験を通して地域のみならず広く環境問題等を考えていく活動

【目的】

- 姫島の魅力だけでなく、抱える課題について多角的・総合的に考えていく力を育てる。
- すばらしい自然環境を守り、残していくことの大切さを理解し、自分の将来にわたり生活環境を主体的に改善していこうとする態度を育てる。

③「地域の伝統文化の継承・発信」プロジェクト

地域の伝統文化や偉人等を調べたり、行事等に参加したりすることを通して、地域の抱える課題等を考えていくと同時に、国内や世界の保護・継承の取組を調べたり、互いの取組を交流したりする活動

【目的】

- 姫島のよさや偉人のすばらしさを知り、それらを守り、継承していく担い手として主体的に参加しようとする態度を育てる。
- 国内外におけるお互いの伝統文化のよさを伝え合おうとする態度を育てる。

《全体として》

- ◎姫島の伝統文化やすばらしさを地域以外の多くの人に伝えるために、調べたことや考えたことをまとめたり、国内外に発信したりできる力を育てる。
- ◎地域の活性化のために、島に来た観光客等に、ジオ案内人などとして広く地域のよさを伝えようとする態度を育てる。
- ◎自分たちが調べたことや考えたことなどを、ユネスコスクールやジオパークのネットワークを活用し広く伝え、交流するなどのコミュニケーション力を育てる。



①の写真（三代目ふれあい交流会）



②の写真（ジオサイト案内 拍子水）



③の写真（ジオパーク交流 まとめ学習）



④の写真（きらきら大作戦 地域の偉人）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解・ 文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統 化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な 生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー 平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ウェブサイト・姫島や豊後大野市のパンフレット・書籍

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDを核とした全体計画を作成し、3つのプロジェクトを中心に、その中に7つのつきたい能力・態度を大きく「問題解決力」「コミュニケーション力」「意欲・実践力」の3つの観点にまとめ、指導内容を位置づけている。また、来年度に向け課題解決型の学習過程を重視した教育課程を編成したり、校内研究と結びつける準備をしたりしているところである。

本年度中にESDカレンダーを作成するなど、教科横断的な指導計画を作成中である。また、課題解決的な学習過程になるように活動計画を少しずつではあるが作成している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校は姫島中学校と連携しながら、児童生徒の9年間の育ちを支援するための取組を行ってきた。その中に、地域協働部会を位置づけ、ユネスコスクールに関する取組を推進している。本年度は、福岡県大牟田市のユネスコスクール全国大会や授業研究会等に参加し、研修の場等で還流を行っている。さらには、部会で県教委から講師を招聘しユネスコスクールについての研修をするなど全教職員で取り組む体制を整えてきている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

教師の観察、ワークシート、ふり返りカード、児童の作品、児童の作文、自己評価、ゲストティーチャー等からの感想・意見、観点別評価を活動や授業の内容等により組み合わせながら評価を実施するように計画した。

しかし、1年目ということもあり取り組みに個人差があるなど、教職員の共通理解が不十分であった。来年度に向けて、活動内容ごとの評価方法や内容について検討し、教育課程に位置付けていく必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESD について、本年度より本格的に研修や視察等を行って学習を深めている状況なので、まだまだ十分な成果はあげられていない。しかし、本校では5年前より豊後大野市とのジオパーク交流学习を行っており、毎年6年生がジオサイト案内をしたり、各種大会・シンポジウム等に参加し活動や取組の報告などをしてきている。その中で、子どもたちの姫島の人・もの・ことに対する意識は高まってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ユネスコスクールに加盟したばかりで、また、島という地域性もあり、他団体との交流や協働などが行われていないのが実態である。まずは、教育委員会との連携を密にするために、一緒に研修会等に参加したり、資料提供したりするなどの取組しかできていない。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

本年度は、特に実施していない。
他のユネスコスクールより送られてくる取組や情報等をそれぞれの教職員がメールで確認したり、ユネスコスクールのホームページより研修のための資料等を収集したりする程度であった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- 教職員の間でESDに関する理解が深まった。
- ジオ交流学習を通して、子どもたちが意欲的・主体的に活動に取り組む様子が見えてきた。
- 学習を深めることで、地域のよさや課題に目が向くようになり、課題解決に向けた自分なりの考えが持てるようになってきている。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 他地域のユネスコスクールとのネットワークを通じた交流の推進を行う。
- どのような団体との協働・交流等ができるのかを検討し、取組を推進していく。
- 小中の連携を強化し、「ふるさと科」の指導内容や指導方法をさらに見直し、小中の発達段階に応じたカリキュラムの作成をする。
- 課題解決学習やアクティブラーニング等を取り入れた学習を工夫・改善し、指導方法の確立をめざす。
- ESDに関する教職員研修の充実を図る。
- 「地域の人との交流・体験」「地域の自然・環境理解」「地域の伝統文化の継承」における活動の精選や見直しを進めていく。